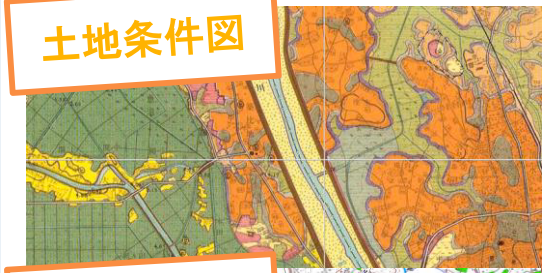
地盤調査

SOME THING

1 資料調査

事前に調査地に関する資料を調査し、
現地の地盤状況を予測します。

土地条件図



地形図

地形分類図

表層地質図

その他、近隣データや旧地形図
なども参考にします。

2 周辺調査

調査地周辺の地形の傾斜、隣接地の
高低差、異常の有無など確認します。

周辺に住んでいる方からの聞き取り
などもとても重要な情報となります。

3 現地調査

計画建物配置に、調査機を設置し、
地盤の支持力を計測します。

必要に応じて、補足で追加測定を行
い、経済的な基礎工をご提案します。

Copyright(c) 2018 SOMETHING.Co.,Ltd.All Rights Reserved

スウェーデン式サウンディング試験

SOME THING

データシート[SAMPLE]

スウェーデン式サウンディング試験結果

Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation
ここクリックすると電子認証の有効性を確認できます。
GeoSign

管理番号	№20080400026			調 査 名	サンプル様邸
調査地住所	宮城県加美郡〇〇町１１４８０			測点番号	1
試験深度	15.00 m			調 査 者	鈴木七郎
年 月 日	平成20年2月20日	調査時刻	14:41 ～ 15:13	標 高	KBM 0 m
[illegible]	3833.7293n (38° 33' 43.76")	東 経 :	14053.1949n (140° 53' 11.69")	水 位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体 : 2G2440-1	制御装置 :	2C9434-1	試験装置	ジオカルテⅡ ／ 天候 快晴/小雨

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	換算N値 (回)	換算qa (kN/㎡)
0.25	25	0.05	自沈	0			0.1	1
0.50	25	1.00	2.0	8			3.4	42
0.75	25	0.75	自沈	0		ロッド自沈	2.2	28
1.00	25	0.75	自沈	0		ロッド自沈	2.2	28
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		ロッド自沈	1.5	18
1.50	25	0.50	自沈	0		ロッド自沈	1.5	18
1.75	25	0.75	自沈	0		無回転急速	2.2	28
2.00	25	1.00	2.0	8			3.4	42
2.25	25	1.00	1.0	4			3.2	40
2.50	25	1.00	3.0	12			3.6	45
2.75	25	1.00	2.0	8			3.4	42
3.00	25	0.50	自沈	0		ロッド自沈	1.5	18
3.25	25	1.00	7.0	28			3.8	31
3.50	25	1.00	22.0	88			7.8	63
3.75	25	1.00	21.0	84			7.6	61
[illegible]	[illegible]	[illegible]	25.0	100	ジャリジャリ		8.7	[illegible]
4.25	25	1.00	31.0	124	ジャリジャリ		10.3	82
4.50	25	1.00	12.0	48	ジャリジャリ		5.2	41
4.75	25	0.50	自沈	0		ロッド自沈	1.5	18
5.00	25	0.50	自沈	0		回転急速	1.5	18
5.25	25	0.50	自沈	0			1.5	18
5.50	25	0.75	自沈	0		回転急速	2.2	28
5.75	25	0.75	自沈	0		回転急速	2.2	28
6.00	25	0.75	自沈	0		ロッド自沈	2.2	28
6.25	25	0.75	自沈	0		ロッド自沈	2.2	28
6.50	25	0.75	自沈	0		ロッド自沈	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	1.00	自沈	0		ロッド自沈	3.0	[illegible]
7.00	25	1.00	自沈	0		ロッド自沈	3.0	37
7.25	25	1.00	3.0	12			2.8	22
7.50	25	1.00	4.0	16			3.0	24
7.75	25	1.00	6.0	24			3.6	28
8.00	25	1.00	17.0	68			6.5	52
8.25	25	1.00	21.0	84			7.6	61
8.50	25	1.00	3.0	12			2.8	22
8.75	25	1.00	2.0	8			2.5	20
9.00	25	1.00	2.0	8			2.5	20
9.25	25	1.00	3.0	12			2.8	[illegible]
9.50	25	1.00	4.0	16			[illegible]	[illegible]
9.75	25	1.00	6.0	24			3.6	28
10.00	25	1.00	6.0	24			3.6	28

荷重 Wsw (kN) .25 .50 .75 ／ 貫入量1m当り半回転数 Nsw 50 100 150 200 250 ／ 推定柱状図 ／ 推定水位 (m)

土質凡例：粘性盛土　粘性土　砂質土

：回転層　：自沈層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

緯度・経度
GPSから取得した位置情報(試験場所)を表示

貫入状況記事
ロッド貫入時の状況(貫入音、自沈状況、空転、打撃)を示す

半回転数Na
ロッドが半回転(180°)し、これを1回とする。
また、1mあたりに換算して表示する(Nsw)

荷重
0. 05⇒0. 15⇒0. 25⇒0. 50⇒0. 75⇒1. 00(kN)の6段階ある

貫入深さ
ロッドの貫入深度を示している。0. 25m(25cm)が1層

地下水位
ロッドの引き抜き時に付着した水位を図る

換算qa(kN/㎡)
各層の貫入状況(自沈状況、回転数)から地盤の支持力を算出

換算N値
地盤の強さを評価する基準値

推定柱状図
砂質土や粘性土などの推定土質、図は盛土を示す。盛土を区分することは重要

グラフ
NswとWswをグラフにして表示する。グリーンのラインより左が軟弱な層、右が良好な層

□：電子認証の範囲

Copyright(c) 2018 SOMETHING.Co.,Ltd.All Rights Reserved

地盤調査報告書

お客様名
物件名

2018年 10月

安心の価値空間を創る

株式会社サムシング

国土交通大臣許可（般-27）第21635号

はじめに

このたびは地盤調査のご依頼ありがとうございました。
ここに調査結果が出来上がりましたので、ご報告させていただきます。
この報告書は①資料調査結果②現地踏査結果③現地計測結果から
最適な基礎仕様、地盤補強方法をご提案させて頂いております。
住まい・構造物づくりのお役にたてれば幸いです。
また、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

物 件 名 称

物 件 住 所

工　　期　　2018年 10月 22日

INDEX

はじめに

■調査報告のまとめ

■1.調査概要

■2.調査方法

■3.調査結果

・チェックリスト

・調査位置図

・スウェーデン式サウンディング試験結果

■4.調査写真

■5.巻末資料

調査報告のまとめ

SOME THING
株式会社サムシング　熊谷支店
〒360-0024
埼玉県熊谷市問屋町2-2-10
TEL 048-529-3649　FAX 048-529-1148

物件番号		判定責任者	関　守男
物件名称		資格番号	第245081号
物件住所		調査者	鈴木　稔
ビルダー様名称		資格番号	
調査方法	スウェーデン式サウンディング試験（JIS A 1221）		
調査日	2018年 10月 22日		
計画建物	木造2階建		
基礎形状	ベタ基礎		

設計荷重度※1	20kN/㎡	（■指定あり　□指定なしのため仮定）
基礎底面深度	GL−0.25m	（■指定あり　□指定なしのため仮定）
備考		

※1 指定がない場合、木造2階建：20kN/㎡、木造3階建：30kN/㎡等にて検討いたします。

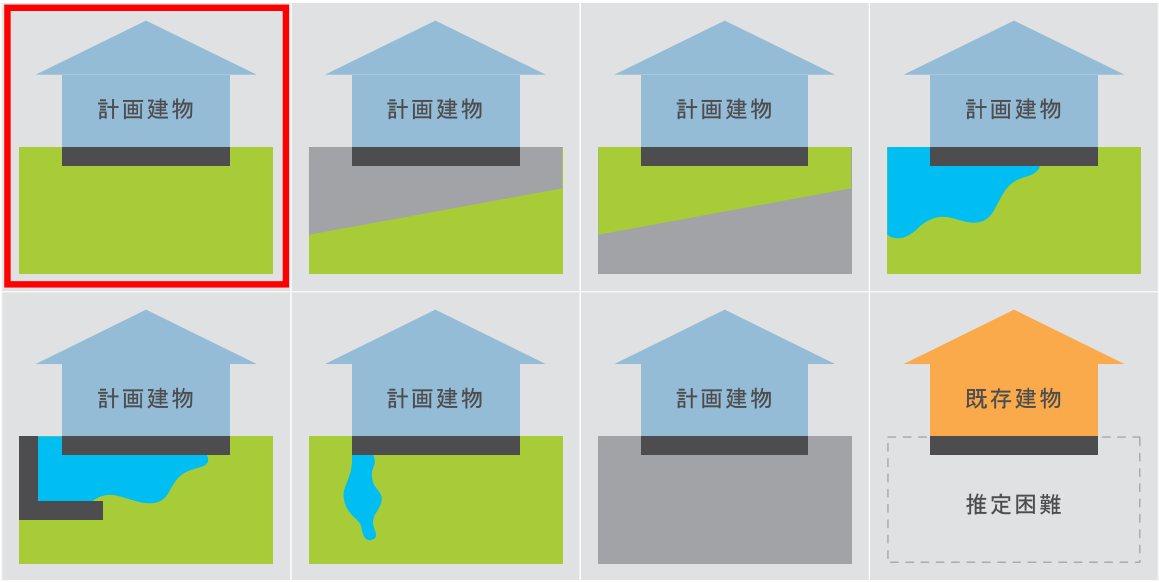
1	資料調査	○	地形：台地
2	現地踏査	○	異常なし
3	現地計測	○	主に回転層
4	追加調査提案	○	現計画においては必要ないと思われます。

▼

総合判定	○	地盤補強　不要

提案書

■ 調査地の地盤状況



良好地盤（回転層、洪積層）　軟弱地盤（自沈層、沖積層、新規盛土）

■ 地盤補強に対する適用方法

（施工条件、行政指導により適用できない工法もありますので、ご確認ください。）

適用	工法種類	良好層分布深度の目安				工 法 例
		GL−2m	GL−5m	GL−13m	良好層なし	
	面的地盤補強工法	○				
		○	○	○	○	
	杭状地盤補強工法	○	○	○		
	特殊工法				○	
	その他				○	

考察

土質構成(推定)
①粘性盛土②粘性土③礫質土で構成された地盤と推測され、調査孔内の水位は確認されませんでした。
全測点において、表層部から主に回転層が確認されている為比較的安定している地盤であると推測されます。その結果、建物荷重による不同沈下の可能性は低いと思われます。
よって、当調査地は根切り時、充分なランマー転圧等を施した上での『ベタ基礎』で対応可能であると判断致します。

調査概要

1−1 調査目的

本調査は、計画敷地地盤における土質構成、並びに土質工学的性状を把握し
安全かつ合理的な構造物の設計、施工に必要な資料を得る目的で実施する。

1−2 調査件名

1−3 調査地住所

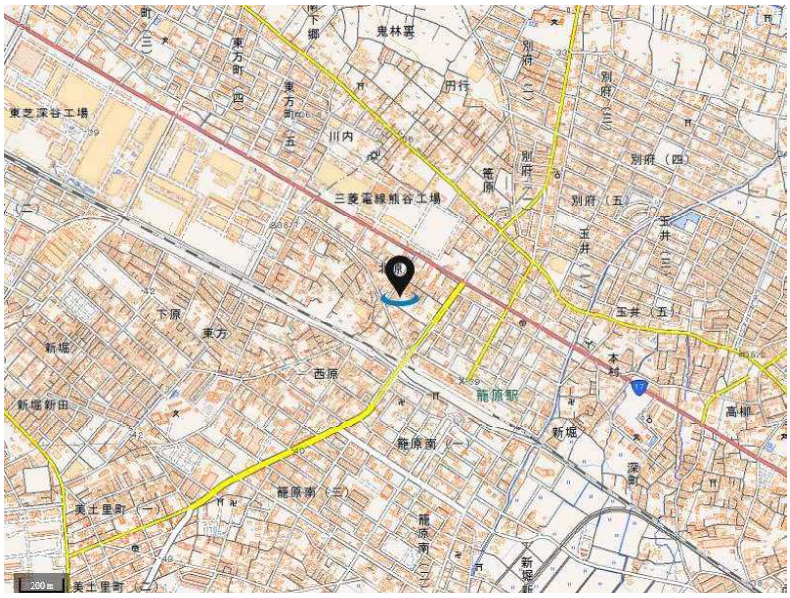
1−4 調査日

2018年 10月 22日

1−5 調査方法

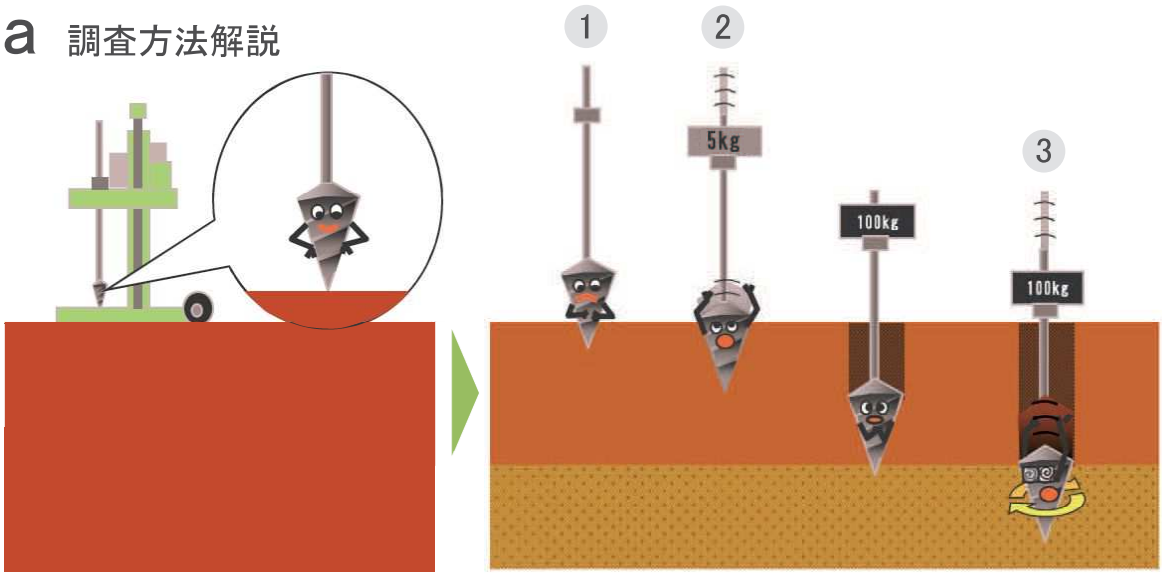
スウェーデン式サウンディング試験（JIS A 1221）
調査数量　5測点

1−6 調査地



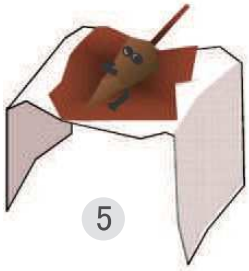
調査方法

a 調査方法解説



調査機:ジオカルテ（日東精工株式会社）

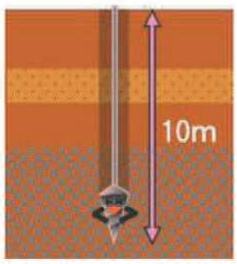
1. ロッドの先端にスクリューポイントを取り付け、調査ポイントに鉛直に設置します。
2. ロッドに5kgの荷重を掛け、スクリューポイントが地盤に沈むか確認します。沈まない場合、更に徐々に荷重を増やしていきます（5kg⇒15kg⇒25kg⇒50kg⇒75kg⇒100kg）。沈んだときの荷重と貫入した距離を記録します。
3. 100kgでも貫入しない場合は、荷重は100kgのままロッドを右回りに回転させ、25cm貫入させるのに要する半回転数を測定し記録します。
4. 測定中はロッドから伝わる音や感触も記録します。
5. 測定終了後、ロッドを引き抜き、付着している土の状態や異常の有無を調べます。



b 試験終了条件

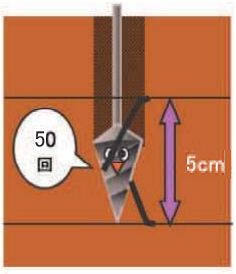
以下の条件を満たした場合は、その深度で試験を終了します。

1



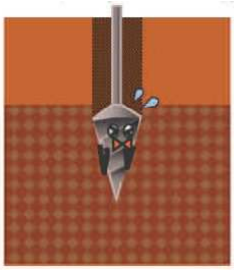
貫入深度が10mに達した場合

2



貫入5cmあたりの半回転数が50回転以上となった場合

3



固い地層に達し、回転時の反発が著しく大きな場合

4

大きな石などの障害物に当たった場合

調査方法

C 試験結果の記録と整理

1. 荷重によって貫入が進む場合には、荷重の大きさ(Wsw)とスクリューポイント先端の地表面からの貫入深さ(D)を記録し、そのときの貫入量を求める。

2. 荷重1kNで、回転によって貫入が進む場合には、半回転数(Na)に対応する貫入後のスクリューポイント先端の地表面から貫入深さを記録し、そのときの貫入量(L)を記録する。

3. 貫入量に対応する半回転数は、次の式を用いて貫入量1m 当たりの半回転数(Nsw) に換算して記録する。
(L=25cmの場合) Nsw=4Na (半回転数1m)

4. 貫入速度が急激に増大したり減少する場合には、貫入状況を記録する。

5. 試験結果は荷重、半回転数、貫入量1m 当たりの半回転数および試験状況に関する記事を記録する。

d 結果の整理

1. N値の算定(換算N値)

推定土質により下記式にてN値を算定する。

砂質土・礫質土	N = 2Wsw+0.067Nsw	稲田式(「地盤調査の方法と解説」:地盤工学会)
粘性土	N = 3Wsw+0.050Nsw	

Wsw : 載荷荷重(kN)
Nsw : SWS試験における1.00mあたりの半回転数(回)

2. 長期許容支持力度の算定

$qa=30\overline{Wsw}+0.6\overline{Nsw}$・・・建築物の構造関係技術基準解説書:国土交通省住宅局他監修

qa 長期許容支持力度(kN/㎡)
$\overline{Nsw}$: 基礎下2.00mの範囲の平均Nsw　※150を超える場合は150とする。
$\overline{Wsw}$: 基礎下2.00mの範囲の平均Wsw

推定土質力が複数になる場合は、各土質の層圧においてNswを算定。算定したNswの内、最小値を採用する。

現地調査（敷地内調査）

GeoSign

既存資料	周辺調査データ	SWSデータ　□あり　■なし	ボーリングデータ　□あり　■なし
	地図データ	地形図　■あり　□なし	旧地形図　■あり　□なし
	地形・地質データ	地形分類図　■あり　□なし	表層地質図　■あり　□なし

地形観察	周辺地形	地形区分	□丘陵地　■台地　□段丘　□平坦化地　□崖錐 □扇状地　□扇状地性低地　□自然堤防　□砂州　□砂丘 □後背湿地　□谷底低地　□氾濫平野　□旧河道　□三角州　□湿地　□海岸平野 □干拓地　□盛土地　□埋立地　□浅い谷　□斜面　□人工地盤　□その他
	地形位置		□頂上部　□中腹部　□傾斜部　□裾部　■平坦部
	水路・河川		■水路・河川なし　□水路・河川あり（　調査地より0m付近に幅0mの河川・水路　）

敷地内観察	敷地履歴	現状	□整地　□既成宅地　□不整地の原野　□水田　□畑　□山林　□雑木林　■造成地 □解体後の更地　□解体中　□造成中　□駐車場　□その他
		前歴	□既成宅地　□原野　□水田　□畑　□山林　□雑木林　□崖地 □河川敷　□河川　□池沼　□工場　■駐車場　□その他
	造成状況	盛土の有無	□盛土なし　■盛土あり（　■1m未満　□1m以上　□2m以上　□切土・盛土が混在　）
		切土の有無	■切土なし　□切土あり（　□全面切土　□切土・盛土が混在　）
		擁壁の有無	■擁壁なし　□擁壁あり （　□-2m以上　□-1m以上　□-1m未満　□+1m未満　□+1m以上　□+2m以上　□その他　）
		盛土経過年数	□盛土なし　■盛土あり （　■1年未満 □1年～3年未満 □3年～5年未満 □5年以上 □10年以上 □不明　）
		新規盛土の予定	■なし　□あり（　□1m未満　□1～2m未満　□2m以上　）
		地表面の起伏	■平坦　□起伏　□傾斜　□その他
		地表面の状況	■更地　□雑草　□コンクリート敷　□砂利敷　□芝生　□アスファルト　□田んぼ　□畑　□その他
		表土状態	■乾　□湿　□硬　□軟　□極軟　□その他
	既存建物状況	既存建物	■なし　□あり（　築年数　　年　）
		既存地下車庫	■なし　□あり（　□壁面亀裂　□スラブ亀裂　□その他　）
		建物構造	□なし　□木造　□鉄骨造　□RC造　□その他
		階数	□なし　□平屋　□2階建て　□3階建て　□その他
		建物基礎の亀裂	■亀裂なし　□亀裂あり（　□少ない　□多い　）
		建物外壁の亀裂	■亀裂なし　□亀裂あり（　□少ない　□多い　）
		建物の異常	■異常なし　□異常あり

施　工	施工支援	搬入障害	■なし　□あり（　□道路幅狭い　□カーブきつい　□クレーン必要　□その他　）
		表層地盤状況	■異常なし　□異常あり（　□表層軟弱　□雨天時は注意　□その他　）
		現場内高低差	■なし　□あり （　□-2m以上□-1m以上　□-1m以内　□-0.5m以内 □+0.5m以内　□+1m以内　□+1m以上　□+2m以上　□その他　）
		電線の有無	■なし　□あり（　□部分的に障害になる　□敷地内全体に障害になる　）
		スペース	■なし　□あり（　□ヤード狭い　□構造物あり　□駐車スペースなし　□その他　）
		その他	■現調不要　□現調必要　□その他

備　考	

現地調査（東側隣接地）

GeoSign

東側状況1	東側状況2

隣接地状況	高低差	■なし　□あり （　□-5m以上　□-2m以上　□-1.5m以上　□-1m以上　□-1m未満 □+1m未満　□+1m以上　□+1.5m以上　□+2m以上　□+5m以上　）
	境　界	□なし　□法面　□擁壁　□ブロック　□金網　□生垣　□U字溝　□L型側溝　□歩道　■境界杭　□その他
	隣地種別	□宅地　□店舗　□既存建物　□更地　□駐車場　□道路　□水田　□畑 □雑木林　□果樹園　□河川　□水路　□池沼　□原野　□造成地　■その他

擁壁状況	擁壁の種類	■なし　□あり （□RC造　□PC造　□CB造　□間知ブロック　□間知石　□大谷石　□玉石　□増積　□万年塀　□その他　）
	擁壁の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□クラック　□膨み　□染み出し　□水抜き孔　□その他　）
	水抜き孔	■なし　□あり

建物状況	建物の有無	■なし　□あり（　□木造　□鉄骨造　□RC造　□その他　）
	建物の階数	■なし　□あり（　□平屋　□2階建て　□3階建て　□その他　）
	建物の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□基礎クラック　□外壁クラック　□建具不良　□その他　）

道路状況	道路の有無	■なし　□あり
	道路の種類	■なし　□あり（　□舗装　□未舗装　）　有効道路幅員（　　m　）
	道路の異常	■なし　□あり（　□亀裂　□凹凸　□段差　□その他　）

備　　考	

現地調査（西側隣接地）

GeoSign

西側状況1	西側状況2

隣接地状況	高低差	■なし　□あり （　□-5m以上　□-2m以上　□-1.5m以上　□-1m以上　□-1m未満 □+1m未満　□+1m以上　□+1.5m以上　□+2m以上　□+5m以上　）
	境　界	□なし　□法面　□擁壁　■ブロック　□金網　□生垣　□U字溝　□L型側溝　□歩道　■境界杭　□その他
	隣地種別	■宅地　□店舗　□既存建物　□更地　□駐車場　□道路　□水田　□畑 □雑木林　□果樹園　□河川　□水路　□池沼　□原野　□造成地　□その他

擁壁状況	擁壁の種類	■なし　□あり （□RC造　□PC造　□CB造　□間知ブロック　□間知石　□大谷石　□玉石　□増積　□万年塀　□その他　）
	擁壁の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□クラック　□膨み　□染み出し　□水抜き孔　□その他　）
	水抜き孔	■なし　□あり

建物状況	建物の有無	□なし　■あり（　■木造　□鉄骨造　□RC造　□その他　）
	建物の階数	□なし　■あり（　□平屋　■2階建て　□3階建て　□その他　）
	建物の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□基礎クラック　□外壁クラック　□建具不良　□その他　）

道路状況	道路の有無	■なし　□あり
	道路の種類	■なし　□あり（　□舗装　□未舗装　）　有効道路幅員（　　m　）
	道路の異常	■なし　□あり（　□亀裂　□凹凸　□段差　□その他　）

備　　考	

現地調査（南側隣接地）

GeoSign

南側状況1	南側状況2

隣接地状況	高低差	■なし　□あり （　□-5m以上　□-2m以上　□-1.5m以上　□-1m以上　□-1m未満 □+1m未満　□+1m以上　□+1.5m以上　□+2m以上　□+5m以上　）
	境　界	□なし　□法面　□擁壁　■ブロック　□金網　□生垣　□U字溝　□L型側溝　□歩道　■境界杭　□その他
	隣地種別	□宅地　□店舗　□既存建物　□更地　□駐車場　■道路　□水田　□畑 □雑木林　□果樹園　□河川　□水路　□池沼　□原野　■造成地　□その他

擁壁状況	擁壁の種類	■なし　□あり （□RC造　□PC造　□CB造　□間知ブロック　□間知石　□大谷石　□玉石　□増積　□万年塀　□その他　）
	擁壁の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□クラック　□膨み　□染み出し　□水抜き孔　□その他　）
	水抜き孔	■なし　□あり

建物状況	建物の有無	■なし　□あり（　□木造　□鉄骨造　□RC造　□その他　）
	建物の階数	■なし　□あり（　□平屋　□2階建て　□3階建て　□その他　）
	建物の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□基礎クラック　□外壁クラック　□建具不良　□その他　）

道路状況	道路の有無	□なし　■あり
	道路の種類	□なし　■あり（　■舗装　□未舗装　）　有効道路幅員（　4.0　m　）
	道路の異常	■なし　□あり（　□亀裂　□凹凸　□段差　□その他　）

備　　考	

現地調査（北側隣接地）

GeoSign

北側状況1	北側状況2

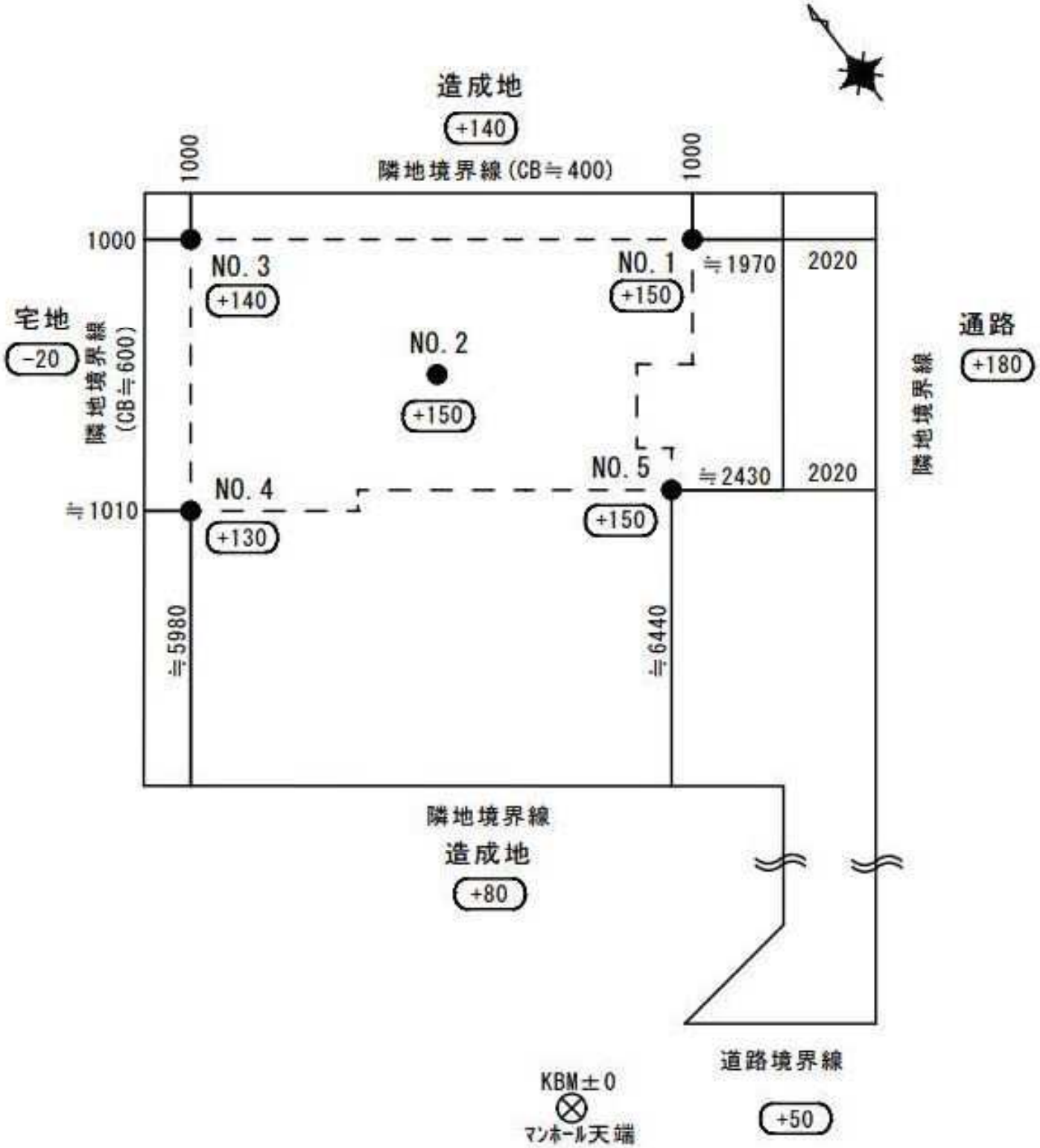
隣接地状況	高低差	■なし　□あり （　□-5m以上　□-2m以上　□-1.5m以上　□-1m以上　□-1m未満 □+1m未満　□+1m以上　□+1.5m以上　□+2m以上　□+5m以上　）
	境　界	□なし　□法面　□擁壁　■ブロック　□金網　□生垣　□U字溝　□L型側溝　□歩道　■境界杭　□その他
	隣地種別	□宅地　□店舗　□既存建物　□更地　□駐車場　□道路　□水田　□畑 □雑木林　□果樹園　□河川　□水路　□池沼　□原野　■造成地　□その他

擁壁状況	擁壁の種類	■なし　□あり （□RC造　□PC造　□CB造　□間知ブロック　□間知石　□大谷石　□玉石　□増積　□万年塀　□その他　）
	擁壁の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□クラック　□膨み　□染み出し　□水抜き孔　□その他　）
	水抜き孔	■なし　□あり

建物状況	建物の有無	■なし　□あり（　□木造　□鉄骨造　□RC造　□その他　）
	建物の階数	■なし　□あり（　□平屋　□2階建て　□3階建て　□その他　）
	建物の異常	■なし　□あり（　□沈下　□傾斜　□基礎クラック　□外壁クラック　□建具不良　□その他　）

道路状況	道路の有無	■なし　□あり
	道路の種類	■なし　□あり（　□舗装　□未舗装　）　有効道路幅員（　　m　）
	道路の異常	■なし　□あり（　□亀裂　□凹凸　□段差　□その他　）

備　　考	


造成地
+140
1000
隣地境界線(CB≒400)
1000
1000
NO. 3
+140
NO. 1
+150
≒1970
2020
宅地
-20
隣地境界線
(CB≒600)
NO. 2
+150
通路
+180
隣地境界線
NO. 5
+150
≒2430
2020
≒1010
NO. 4
+130
≒5980
≒6440
隣地境界線
造成地
+80
道路境界線
+50
KBM±0
マンホール天端

スウェーデン式サウンディング試験結果

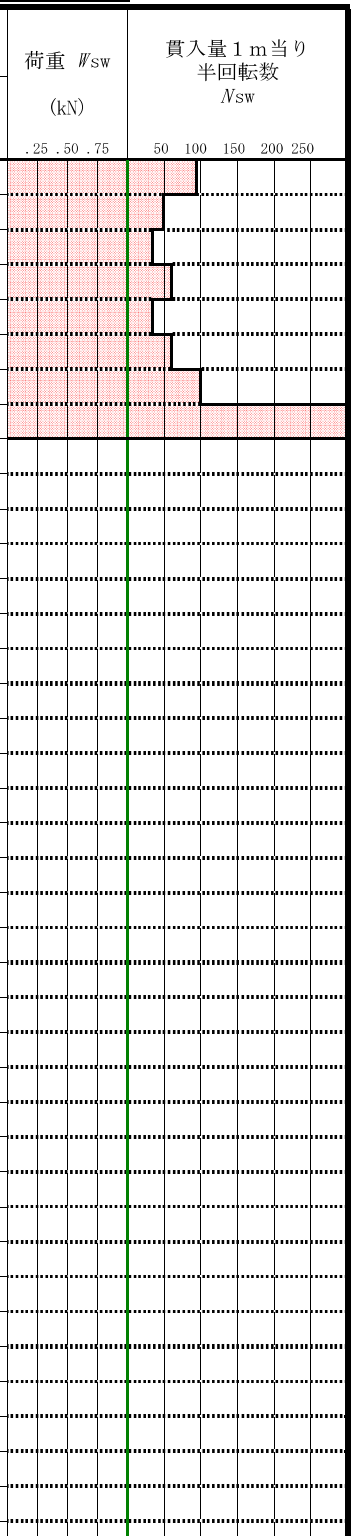
Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証の有効性を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。

GeoSign

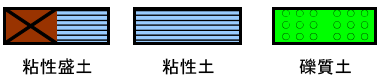
管理番号	S2018-026-01596-02 ／ No.20181002840	調 査 名	
調査地住所		測点番号	1

試験深度	1.76 m			調 査 者	鈴木　稔
年 月 日	平成30年10月22日	調査時刻	9:10 ～ 9:15	標　　高	KBM 0.15 m
緯度・経度	北 緯：	東　経 ：		水　　位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体： 3G0379	制御装置： 3G0379		試験装置	ジオカルテⅢ　天候 晴

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	推定 柱状図	推定水位 (m)	換算N値 (回)	換算 qa (kN/m²)
0.25	25	1.00	23.0	92					7.6	85
0.50	25	1.00	12.0	48					5.4	58
0.75	25	1.00	8.0	32					4.6	49
1.00	25	1.00	14.0	56					5.8	63
1.25	25	1.00	8.0	32					4.6	49
1.50	25	1.00	15.0	60					6.0	66
1.75	25	1.00	25.0	100	ガリガリ				8.7	90
1.76	1	1.00	90.0	9000	ガリガリ	強打撃貫入			20.0	120



土質凡例



：回転層
：自沈層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

スウェーデン式サウンディング試験結果

Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証のお[illegible]を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。
GeoSign

管理番号	S2018-026-01596-02 ／ No.20181002840	調 査 名	
調査地住所		測点番号	2

試験深度	1.60 m			調 査 者	鈴木　稔
年 月 日	平成30年10月22日	調査時刻	9:19 ～ 9:25	標　　高	KBM 0.15 m
緯度・経度	北 緯：	東　経 ：		水　　位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体： 3G0379	制御装置： 3G0379		試験装置	ジオカルテⅢ　天候 晴

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	荷重 Wsw (kN) .25 .50 .75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	推定柱状図	推定水位 (m)	換算N値 (回)	換算qa (kN/m²)
0.25	25	1.00	66.0	264							16.2	120
0.50	25	1.00	28.0	112							8.6	97
0.75	25	1.00	6.0	24							4.2	44
1.00	25	1.00	13.0	52							5.6	61
1.25	25	1.00	5.0	20							4.0	42
1.50	25	1.00	28.0	112	ガリガリ						9.5	97
1.60	10	1.00	71.0	710	ガリガリ	強打撃貫入					20.0	120

土質凡例：粘性盛土　粘性土　礫質土

：回転層
：自沈層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

スウェーデン式サウンディング試験結果

Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証の有無を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。

GeoSign

管理番号	S2018-026-01596-02 ／ No.20181002840	調 査 名	
調査地住所		測点番号	3

試験深度	1.32 m			調 査 者	鈴木　稔
年 月 日	平成30年10月22日	調査時刻	9:29 ～ 9:32	標　　高	KBM 0.14 m
緯度・経度	北 緯：	東　経 ：		水　　位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体： 3G0379	制御装置： 3G0379		試験装置	ジオカルテⅢ　天候 晴

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	荷重 Wsw (kN) .25 .50 .75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	推定柱状図	推定水位 (m)	換算N値 (回)	換算qa (kN/m²)
0.25	25	0.75	0.0	0							2.2	22
0.50	25	1.00	4.0	16							3.8	39
0.75	25	1.00	5.0	20							4.0	42
1.00	25	1.00	4.0	16							3.8	39
1.25	25	1.00	7.0	28							4.4	46
1.32	7	1.00	71.0	1014	ガリガリ	強打撃貫入					20.0	120

土質凡例

粘性盛土　粘性土　礫質土

：回転層
：自沈層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

スウェーデン式サウンディング試験結果

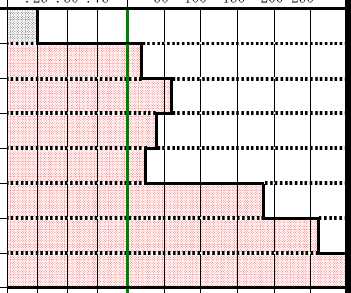
Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証の有効性を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。

GeoSign

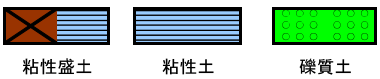
管理番号	S2018-026-01596-02 ／ No.20181002840	調 査 名	
調査地住所		測点番号	4

試験深度	1.93 m			調 査 者	鈴木　稔
年 月 日	平成30年10月22日	調査時刻	9:37 ～ 9:43	標　　高	KBM 0.13 m
緯度・経度	北 緯：	東　経 ：		水　　位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体： 3G0379	制御装置： 3G0379		試験装置	ジオカルテⅢ　天候 晴

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	荷重 Wsw (kN)	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw	推定柱状図	推定水位 (m)	換算N値 (回)	換算qa (kN/m²)
0.25	25	0.05	0.0	0							0.1	1
0.50	25	1.00	5.0	20							4.0	42
0.75	25	1.00	14.0	56							5.8	63
1.00	25	1.00	10.0	40							5.0	54
1.25	25	1.00	6.0	24							4.2	44
1.50	25	1.00	46.0	*184*	ガリガリ						14.3	120
1.75	25	1.00	65.0	*260*	ガリガリ	強打撃貫入					19.4	120
1.93	18	1.00	106.0	*588*	ガリガリ	強打撃貫入					20.0	120



土質凡例



粘性盛土　粘性土　礫質土

：回 転 層
：自 沈 層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

スウェーデン式サウンディング試験結果

Soil Investigation is Certificated by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証の有無を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。

GeoSign

管理番号	S2018-026-01596-02 ／ No.20181002840	調 査 名	
調査地住所		測点番号	5

試験深度	2.14 m			調 査 者	鈴木　稔
年 月 日	平成30年10月22日	調査時刻	9:46 ～ 9:58	標　　高	KBM 0.15 m
緯度・経度	北 緯：	東　経 ：		水　　位	GL- 確認できず m
シリアル番号	本 体： 3G0379	制御装置： 3G0379		試験装置	ジオカルテⅢ　天候 晴

貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当り半回転数 Nsw (回)	記事 音・感触	記事 貫入状況	荷重 Wsw (kN) .25 .50 .75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 150 200 250	推定柱状図	推定水位 (m)	換算N値 (回)	換算qa (kN/m²)
0.25	25	1.00	30.0	120							9.0	102
0.50	25	1.00	25.0	100							8.0	90
0.75	25	1.00	6.0	24							4.2	44
1.00	25	1.00	8.0	32							4.6	49
1.25	25	1.00	5.0	20							4.0	42
1.50	25	1.00	12.0	48							5.4	58
1.75	25	1.00	6.0	24							4.2	44
2.00	25	1.00	6.0	24							4.2	44
2.14	14	1.00	78.0	557	ガリガリ	強打撃貫入					20.0	120

土質凡例

粘性盛土　粘性土　礫質土

：回転層
：自沈層

※ 太枠内のデータが電子認証対象となります。

Soil Investigation is Certificate by GeoSign Corporation.
ここクリックすると電子認証のオ[illegible]を確認できます。
エラーの場合は最新のＰＤＦをダウンロードして下さい。
GeoSign

調査状況及びその他1

調査地全景1

調査地全景2

前面道路1

KBM確認（近景）

KBM確認（遠景）

形状確認

調査状況及びその他2

測点1

測点2

測点3

測点4

測点5

測点2　GL-0.75m付近

安心と信頼をもたらす新時代の地盤調査 GeoSign

この度、地盤調査をご依頼いただきまして、誠にありがとうございました。
「G-web system」は「電子認証」をキーワードとし、全自動地盤調査機・ＧＰＳ・タイムスタンプを最大限に使用した地盤調査の明確で正しい基準の標準化を目指します。

今までと何がちがうの？

実際にこの場所で試験した調査データで間違いない？

・G-Webシステムは業界では無かったGPS機能を搭載しました。試験機にGPSを搭載する事により、地盤調査位置及び写真撮影を行った位置（緯度、経度）、日時を衛星により捕捉し、正しく記録します。

試験データの移動はすべて無線通信で行います。

・試験データ及び写真データの入力、出力は無線通信でG-Webサーバーに送られる為、データの出力ミスや改ざん等が無く、安心してデータ移動が行えます。

調査データ、写真データは認証されます。

・調査データや写真データは全てジオサイン（株）による電子認証がなされ第三者によるデータの改ざん性、存在性をきちんと証明致します。

試験データはしっかり保存されていますか？

・5年10年前のデータは現在、再発行すると無い物が多いと思われますが、G-Webシステムのデータは電子媒体で長期保存が可能な為、5年10年の保存が可能になりました。

『G-Web system』は、GPS（位置情報）・タイムスタンプ（調査時刻）・地盤調査データなどをインターネットを活用し、リアルタイムで『電子認証』を行い、不正な入力や改竄を防止できるシステムです。一般地盤調査はもちろんの事、2009年10月から施行の瑕疵担保履行法による保険にも幅広く活用できます。